

事例紹介

弘子さん （79 歳女性）

高校卒業後銀行員として勤め、同じ銀行員の夫と 25 歳で結婚して退職し、専業主婦となり 3 子を授かりました。子供たちは独立し遠方で家庭を持ち、定年退職した夫と二人で生活していました。夫が銀行員時代は日本各地を転々としたので近所には友人がおらず、最近は夫以外とほとんど話すことなく閉じこもって過ごしていました。70 歳を超えたころから携帯電話を持ち、なんとか使い方を覚えて使っていましたが、昨年買い換えたスマートフォンの使い方はよくわからず、電話はできるものの、メールは打たなくなりました。

正月に子供たちが集まった時に弘子さんがメールの返信をしないことが話題となり、長男が何度もスマホの使い方を教えようとしますが「も

う年だから覚えるつもりはない」と言って弘子さんは怒ってしまいました。長女は義理の母親が最近認知症になったので認知症のことが心配になり、弘子さんの夫に話を聞いたところ、最近間違っって同じものを買うことが増えていることが分かりました。心配した弘子さんの子供たちは「良いお薬があるみたいだから早めに診てもらったら？」と言いましたが弘子さんは「私のもの忘れは年齢相応だから心配ない」と言い断っていました。もともと病院とは縁のない弘子さんは自分の健康に自信があったのです。

そこで長男はまず大阪市が実施している後期高齢者のための健康診断に行ってみるよう伝えました。健康診断には抵抗感がなかった弘子さんは久しぶりに健康診断を受けました。す



ると高脂血症や高血圧の疑いが分かったので地域の内科クリニックを受診することにしました。クリニックでは高脂血症については薬を飲むほどではないと言われたのですが、高血圧に関してはお薬を出してもらうことになりました。クリニックの受診に同行した長女がもの忘れのことも相談してみたところ、「高血圧は認知症の危険因子なので一度検査してみたらよいのでは」と言われました。クリニックの先生に言われると弘子さんも一度認知症の検査を受けてみようと思いました。紹介状をもらい認知症疾患医療センターに受診することになりました。

認知症疾患医療センターでは少し緊張しましたがいろいろな検査を受け、軽度認知障害と診断されました。もの忘れの程度は年齢相応とは言えないということで弘子さんはがっかりしましたが「今の高血圧治療をしっかりと続けること」「閉じこもらずに運動すること」「メモやカレンダーを使う習慣をつけること」と言われたので、自分にできる範囲でやってみようと思いました。6か月に一度認知症疾患医療センターに行き、記憶力を調べてもらうことになったので、次までに体を元気にしようと思っています。また近所で百歳体操をやっていることを知り、そこに参加してみたところ友達ができたので少し楽しい日課ができました。